

石川県剣連だより 剣風春秋

第41号

一発行一



一般財団法人
石川県剣道連盟

〒920-0811
金沢市小坂町西57-3 KS/ハイツ205号室
TEL 076-253-0310 FAX 076-253-0341
E-mail:ishikawa-kendo@iaaitkeeper.ne.jp
URL www.fishikawa-kendo.com

特集「女性の剣道」

- 4・5頁「剣客往来インタビュー」
金沢市 室谷 智代さん
- 6頁「女性の剣道」
志雄少剣 松本 悟氏
- 7頁「高齢における七段合格」
輪島市 組橋 貞夫氏
羽咋市 土田 敏勝氏

「全国大会
(居合道、インターハイ)
に向けて」
— 先ずは強化を —



副会長
中村 康徳

一 はじめに

謹賀新年 明けまして、おめでとうございます。県内各地の会員の皆さんにおかれては、稽古始から精励されておられることと、お慶び申し上げます。

一般財団法人 石川県剣道連盟(以下、県剣連と)は基本方針に基づき、八項目の重点事項の実現に鋭意、努力しているところは既にご承知の通りだと考えます。

二 二つの全国大会開催予定

さて、標題に示しました二つの全国

大会が予定されています。居合道は平成三二年の秋、インターハイは平成三三年の夏に県スポーツセンターでの開催予定です。

県内では過去に剣道のインターハイ・国体・全国教職員大会・全中大会・ねりんピック・全国スポ少大会を開催してきました。大会開催のノウハウ等は担当された会員の頭の中に残っているのではないのでしょうか。居合道においても平成八年に全国大会を開催しており同様であると考えております。

羽咋体育館や羽咋市武道館には、今でも大会で使った掲示板をはじめとして諸標示用具、武道館にはプログラム、役員・補助員必携が残っています。

三 選手強化

先ずは選手の強化で大会の準備はその次になります。

県剣連の重点事項の三項目目に「全国大会の入賞を目指し、高校・大学・一般選手各層の二層の強化・充実を図る。」とあります。幸いに、県剣連では強化委員会を中心として中高一貫の

強化練習が実施されており、その成果に大きな期待を寄せています。

前回大会では開催六年前より強化を始め、五年前には高校剣道部の強化指定校制度がスタートしたことが思い出されます。強化には指定校の剣道部員のみならず、指定校のOB・OG、保護者・家庭、監督を支える学校・家族・親戚・友人の応援・支援がありました。今回も同様な体制づくりが必要なのではないでしょうか。

四 施設面

県スポーツセンターは全国に誇りうる施設で最高の舞台が用意されています。前回で課題となった選手の輸送、空調設備、観覧席、照明、仮設設備、配宿問題等はどうでしょうか。県都金沢開催なので少し、安心していきます。

五 運営面

前回は全県開催で、各市町村には開催三年前には準備委員会、二年前には実行委員会が発足しました。羽咋市でも式典、宿泊・衛生、役員・

選手の輸送、役員・補助員の養成、環境整美、仮設の設備、練習会場、駐車場対策等たくさんあり、専門部はもちろんのこと、市当局の人的・財政支援をはじめとして、羽咋・羽咋工業・羽松高校の教職員、その他たくさんの人達のお世話・協力・支援で成功裡に終えました。

六 開催に向けて

石川で開催予定のインターハイは県教委や県高体連の方針が早く示されることを期待すると共に専門部からは「誰が中心となり、誰が何を分担していくのか、県剣連の会員は何を」といった「体制づくり」が早く示されることを望みます。

七 居合道について

居合道についても、強化、運営面を通じて「二人二役」を担っていく必要があります。

過去最高の団体成績を収めるために、県剣連挙げての強化・協力が不可欠となります。

全国からたくさんの方の選手・監督、来賓、役員、応援団を迎える大会です。大会の周知と強化、並びに運営面での協力をお願いして巻頭の言葉といたします。

全剣連講習会(指導法)



事務局長
倉久廣

期日 七月二日(日)

会場 石川県立武道館

講習科目 指導法

講師 吉村 哲夫

(東海大教授、教士八段)

一 はじめに

石川県剣道連盟は、正しい剣道の普及と指導者の養成に取り組んでおります。

二 講習会の概要

今回の講習会は、全剣連から、吉村哲夫教士を講師として派遣していただき、受講生として県内各地域・職域から七十名が参加しました。吉村講師は、最初の講話において、「平成二十九年度全剣連の重点事項に沿い、剣道の理念に基づき指導することが大切である。」と指導の基本的在り方について、熱く説かれました。

三 実技指導

引き続き行われた実技指導は、「木刀による剣道基本技稽古法」の、基本一から基本九までについて、ポイントを具体的かつ丁寧に指導をされました。その後四人一組によるグループ指導を行い、講習生の指導力を磨く練習をしました。講習生の中には「木刀による剣道基本技稽古法」を普段稽古していない講習生も見受けられ、講師から指導されていました。午後は、相対動作による足さばき・各種の基本動作を行い、最後に面を着けて切り返し・打ち込み稽古・掛かり稽古を行い、講習生は何年か振りに打ち込み稽古・掛かり稽古に汗を流し講習会を終えました。

四 結びに

また、講習会終了後には、吉村講師には大変お疲れのところ、指導稽古まで賜り、厚く御礼申し上げます。講習会報告とさせていただきます。



三府県合同研修会に参加して



石川県学校剣道連盟
事務局長
中越 顕治

第四十二回石川・富山・大阪学校剣道連盟合同研修会が、十二月二日(土)・三日(日)に大阪市の東淀川高等学校で開催されました。

参加者は石川県末平会長以下二十四歳から七十四歳の教職員と教職員OB計十九名。富山県十九名。大阪府は作道正夫会長以下五十名。総勢八十八名の参加者で盛大な研修会になりました。

この研修会は昭和五十年に、田畑武正・故津雲達雄両先生が、故小森園正雄八段に「石川の教員の強化のため、大阪で稽古の場を設けていただけないか」と直談判したことからは始まりました。おかげで平成四・五年の全国教職員剣道大会では石川県は悲願の全国優勝することができ、その後本研修会は続いており教職員の貴重な自己研鑽の場となっています。

今回の研修の内容は、一日目は若手(二十代～四十代)による試合と合

同稽古(八段九名参加)、二日目は五十代以下による指導法と合同稽古(八段九名参加)でした。

試合では、三府県の代表選手が団体試合を行い、石川県選手は先鋒から平戸、三嶋、鶴城、久保、原田、山田、山森の七人。石川県は富山戦四勝〇敗、大阪戦では三勝二敗で優勝することができました。平成二十四年以来六年連続の優勝で、教員らしく生徒の見本になるような試合内容でした。

指導法では、北村宏二教士八段による「切り返し」、緒方勇二教士八段による「しかけ技」が指導されました。現場の生徒を指導する上での大切なポイントをわかりやすく解説され、また両八段が見せる見本は、品格、姿勢、手の内、刃えが際立っており、模範を見せることは、言葉で言うよりも遙かに説得力があると感じました。

今後、毎年開催されるこの研修会をさらに有意義



なものにし、私達が身をもつて学んだことを石川県の子ども達に還元させていきたいと参加者一同感じています。

本年度「国体」結果と強化の経過について



強化委員長
宇波 和彦

「全種別で本国体出場」を目標に掲げ、まず北信越国体に3種別がそれぞれ強い気持ちで臨みました。結果は、全種別二位と、大変に残念ではありましたが、最後まで死力を尽くし頑張った各選手への努力は、次に繋がるものと確信できるとの試合内容でした。

成年女子は、昨年度に続き本国体出場を決めるには十分な状態で臨みましたが、勝者数一点差で福井県に甘んじる結果となりました。北信越国体独特の試合の流れを制することが、本国体への切符に直結することを思い知らされました。

少年男女においては、長く本国体に出場できない苦節の時期を打

開するため、スタッフ・選手が一体となり、当日に照準を合わせて最高の状態で戦えるよう準備しました。少年男子では、不運といつては割り切ることのできない出来事があり、新潟県に甘んじることとなりました。その新潟県が本国体で三位入賞を果たしたことは、関係指導陣や選手に深く響いたものがあったと思います。少年女子においては、一、二年生を起用し臨みましたが、新潟県に技の錬度と気力の僅かな違いにより優勝を逃しました。ここでも新潟県が五位入賞したことを挙げておきたいと思えます。このことから、本県も本国体に出場すれば「入賞という可能性」がすぐそこにあるという意識を持って、来年度の予選に向け、日々努力を重ねていきます。

成年男子においては、長崎国体以来の入賞を予感させるような勢いでしたが、三回戦で大阪府に振り切られ、あと二歩で入賞を逃しました。この戦いぶりから「引き分け」がある大会であれば、上位進出も十分望め、成年男子の競技力の向上を感じました。この状況を精査し今後の強化の方策と内容に充実を図り、来春の都道府県大会に反

映できるよう考えています。

今後は、先達の強化方法を引き継ぎながら、より充実した練習計画を検証し、準備していきたいと思えます。また、本県の剣道家の皆様のご支援と、稽古を通じてのご協力をお願いいたします。

「ねんりんピック秋田2017」に参加して



白山市
宮谷 順二

第30回全国健康福祉祭あきた大会剣道交流大会が、秋田県由利本荘市で九月九、十一日に開催されました。六十歳以上を対象にした健康と福祉が目的の大会です。東北の大会ということで、昨年の長崎からは一か月ほど早い開催時期になりました。

五月に県予選を勝ち抜いた選手五名（60～64歳で二名、65～69歳で二名、大将70歳以上）は、米林監督とともに「戦必勝の姿勢」を実現するため、ゆーりんピック稽古会とそれぞれの稽古場で汗を流

してきました。

大会は67チームが16ブロックに分かれて予選二試合を行い、勝者数・本数で二位のチームが決勝トーナメントに進出します。石川県は予選を5チームで行い、一試合目の広島戦は2勝2敗の本数勝ち、二試合目の神奈川戦は3勝1敗となり、ブロック二位で予選を通過し、ベスト16に進むことが出来ました。

翌日の決勝トーナメント初戦の山口戦では1勝1敗の同本数で代表戦となり、惜しくも敗れてしまいました。結果的に山口県は決勝戦で秋田Aチームに惜敗しており、あと一歩という思いを持ちながら帰ってきたことが、私のこれからの稽古への励みになっています。本大会の最高齢者は群馬県の80歳の監督兼大将の方で、かくしゃくとした姿が私たちの手本となっています。会場で各県参加者は熱心に観戦する姿が見られ、その表情から『剣道が好き』という気持ちが溢れているようでした。この大会参加を一つの目標にして、防具を着けて稽古し、『交剣知愛』を育てていけることが幸せだと思いがら過こしてききました。ねんりんピック大会に出場させていただき感謝しております。

剣客往来

インタビュー



剣道七段
室谷 智代さん

室谷さんは日々お忙しい仕事・家庭生活の中から、剣道に熱心に取り組み、このたびの11月の審査会で見事県下二人目の女性として、剣道七段に合格されました。

仕事・家庭・剣道をとくに立派にこなされている剣道稽古の背景、剣道に取り組む姿勢、審査に向けての気持ちの維持などをお伺いしたいと思います。

問 七段合格おめでとうございます。まずご感想をお願いします。

室谷 感謝の一言に尽きます。特に主人、家族、県連の先生方、警察の水曜会の泉先生、岩脇律子先生始め多くの方々のお陰と思っております。

問 七段に向けてのご苦労話、また工夫した点などありましたら、お聞かせください。

室谷 まず稽古時間の確保が課題でした。七段取得の意向を、家族や周りの人に伝え、協力・応援をお願いしました。

工夫した点としては、何度か受験するうちに、基本稽古の大切さに気づかされ、基本に立ち戻ることになりました。特に家族は率直に課題や欠点を指摘してくれました。

素振り、足さばき、打突時の左足の引きつけ、打ち切り、一拍子の打ちなどを特に留意しました。

問 審査当日は、どのような状況でしたか。

室谷 剣道に対する覚悟と私の現在の修行過程を見てください、お願いしますという謙虚な気持ちで臨みました。

一人目は背の高い人でしたが、攻めて面を打ち、有功打突とはなりませんでしたが、自分では打ち切ることができたと安堵しました。

二人目も身長の高い方でしたが、面を打つ修行をしてきたので、攻めて面を打ちたいと臨み、何とか決めることができました。さらに相手の打ち気に対して、落ち着いて抜き胴を決めることができました。

問 剣道を始められたきっかけなどお聞かせください。

室谷 星稜中学校に入り、部活動として女子が参加できる部は少なかったのですが、たまたま剣道を選んだという訳です。

中学校では新森先生に基本を、高校では大学を出たばかりの鍋谷先生に教えていただきました。

問 中学校・高校での剣道部での思い出、苦労話などお聞かせください。

室谷 高校三年時、県で個人2位となり、赤穂インターハイに出場したことが最大の思い出です。

若い鍋谷先生の指導の下、ハードで厳しい稽古であったこと、その中でも良い仲間と過ごせたことが私の財産となっています。

問 ご主人、子供さんたちも剣道をする剣道一家ですが、剣道と家族の関わりについてお聞かせください。

室谷 家族が稽古する場所はそれぞれ違うのですが、子どもたちが



小さいときは、森本少年剣道教室において家族皆で稽古した思い出があります。息子が中学生になり、打たれたりすると、悔しくもあり、うれしくもありと感じたこともありました。今でもホームグラウンドとして森本少剣でいつでも温かく迎えられる、稽古ができる喜びを感じております。

問 仕事・家庭生活、剣道の三つを見事にこなされている訳ですが、稽古時間の確保について、工夫されていることなど、お聞かせください。



室谷 岩脇律子先生に、答えをいわずヒント・アドバイスのにより自分でしっかり考え、工夫していく姿勢を学びました。

ともに剣道をし、ともに悩み、修行する中で何かをつ

室谷 家族にも、職場でも周りの人に助けられた、協力・応援があつてはじめて行いえたことと思います。

水曜会（警察本部）、土曜の連盟稽古、夜の森本少剣の稽古などに多く参加しました。

問 仕事、家庭生活、人生の上で剣道に支えられたこと、あるいは剣道をしてきて良かったことなどお聞かせください。

室谷 辛いことも、ともに乗り越えた仲間との出会い、励ましもいただいたことが思い起こされます。

どの分野においても、辛いことが

あつても、じつとがまんする、ひと呼吸おこななど剣道に相通じるところがあります。

問 現在、修行中の後輩の方々へ（特に女性）何かアドバイスを、お願いします。

室谷 私の方が修行中の方々に逆に励まされたり、皆さんが二所懸命やっている姿に、逆に励まされたり、良い刺激を受けたと思っております。

問 今後、女性剣道指導者として普段心掛けていること、または心掛けたいことは何でしょうか。

室谷 今回の審査で、息子も一緒に行つたのですが、自分の審査に臨む姿、それも合格した姿を見せられてとてもうれしいと思います。

また、帰宅したおりに、娘が花束を持って待っていてくれたのがとてもうれしかったです。

主人は口数少なくとても厳しい人です。身内だからこそ厳しい。家族をそして私をじつと見守っていてくれる。両親の支え、家族との

かんでいただけたらと思います。修行者が考えるヒントを与え、自分で考えて工夫する指導者の姿勢でありたい、目指したいと思います。

問 結びに、今後のご自身の剣道修行における目標・抱負などお聞かせください。

室谷 まず自身も元気で剣道を続けて行きたいと思えます。

また、剣道の魅力探しを今後も続けてまいりたいと思います。

子どもたちについては、自分の剣道を続けて欲しい、二所懸命必死に剣道をやって欲しいと願っております。そしていつまでも家族で剣道について、話し合える環境でありたいと思えます。

3ページ「ねんりんピック秋田 2017」集合写真



共通の話題を支えにこれからも剣道に邁進して行きたいと決意している次第です。

特集

女性の剣道



志雄少年剣道教室

松本 悟

私が指導に携わっている志雄少年剣道教室では、火曜と金曜の通常練習の後、一般の方々の稽古会も行っています。中でも金曜日は女性中心の練習会です。ここに参加している女性たちは、それぞれ学生時代、に剣道をされていた経験者ですが、途中結婚や出産、子育て等でしばらく剣道から離れていらつしゃった時間があります。そして、子どもが剣道を始めたという事が剣道再開のきっかけになったという共通点がある、いわゆる「リバ剣」のお母さん達です。皆さんは、「志雄少年剣道」の頭文字をとって「SSK」というチームを作り、子ども



たちの元立ち、毎週のお互いの稽古、時には大会出場など、とても生き生きと活動されているのが印象的です。それぞれ家庭と仕事、剣道の関係についてどう思っているのか、中心メンバーの方々に聞いてみました。

仕事と家庭、剣道の両立をしようとする、毎日がとてもあわただしく過ぎていきます。週末は休みもない日もあり、休みたいと思うこともあります。でも、長男の中学生最後の試合を見たときに、親子ともに頑張ってきたよかつたなと感じました。そして、剣道の仲間は、剣道するだけの仲ではなく、家族のように相談にものつてくれます。私を支えてくれる、とても大きな存在であり、大切な宝です。子育てが終わつても、この仲間と楽しく剣道生活を過ごしたいと思えます。

(竹田 薫さん)

フルタイムで仕事をしていないので仕事とのバランスとしては、皆さんより大変ではありません。娘が少剣を卒業してからも参加させてもらっていますが、時間など無理のないよう気軽に楽しく子供達と練



習させてもらっています。元々週一回、楽しく稽古して体を動かそうと始めたのですが、試合に出場したり、娘と一緒に昇段審査を受けて合格することが出

来たりと、この歳になつて考えてもみなかった事がたくさんあります。娘のおかげで剣道を再開し、中学の部活の先輩・同級生・後輩ともまた交流できたり、親子共々、他の少剣の方にも仲良くしていただいたり、素敵なご縁にとっても感謝しています。少剣の子供達も可愛くて、卒業していく時は本当に寂しいです。もうしばらく、無理なく怪我なく楽しく稽古し、剣道に携わつていければと思っています。

(上野 香織さん)

我が家は幸い母が料理好きで、平日の晩御飯は用意してくれるのとが出来、ありがたく思っています。また、毎週金曜日、ママさん

剣士が集まるチームSSKでの稽古も楽しみの一つです。基本を中心にした稽古をすることによって、少剣の元立ちにも役立っています。こんな私でも「先生〜!」と慕ってくれる子どもたちに感謝しながら、日々の稽古を楽しんでいます。

(平田 志保子さん)

竹田さんも上野さんも剣道を再開してからそれぞれ三段、二段へと昇段を果たし、平田さんはこの夏の県体、壮年女子の部で優勝を果たしました。みなさん無理なく楽しんで稽古を継続しつつ、剣道をうまく生活の一部として思ういます。また、お母さん方の頑張りを目の当たりにして、子どもたちの剣道への取り組み意識向上もみられ、剣道を通じて良好な親子関係も構築されているようです。今後も無理なく家庭、仕事とのバランスを保ちつつ、ライフワークとしての剣道を楽しんでいただきたいと思います。



剣道七段に合格して



輪島市 組橋 貞夫

今回の審査に臨み、自分に何が足りないのか、自問自答し、先ず山下会長にご指導を仰ぎました。そして太刀筋というか、打ち筋をしつかり捉えること、そして何より、左の拳の使い方の重要性を注意されました。

また坂下先生からは気迫をもった攻め、打ちの重要性を特に注意されました。以上のことを念頭に反復稽古いたしました。そんな折、受審一週間前の稽古後に、枡谷先生から、「何も難しく考えることは無いんだよ、ねりんピック北海道、石川大会のことを思い出し、あの剣道が出来れば大丈夫だ。自信を持って受けて来い。」と励ましの言葉をいただきました。其の時、気付かされました。自分は、余所行ききの剣道を目指していたのだと。枡谷先生の言葉を聞いた時、本当に心が楽になり、そ

うか普段着の剣道、ありの儘の剣道を晒せば良いんだと思うと、プレッシャーが取れ、楽な気持ちで受審することが出来ました。

実技に当たり、それらの教えを念頭に、『不敗之位』から『水瀧刀之位』へと攻め込み、尚も半歩程攻める攻防より、先を取った一撃一撃が打ち切れたと思います。

これまでご指導くださいました先生、また多くの諸先生、また多くの剣友の皆様、改めて心より厚くお礼申し上げます。本当に有難う御座居ました。これからは、生涯剣道を目指して頑張ります。皆様、宜敷くお願い致します。

剣道七段に合格して



羽咋市 土田 敏勝

一 七段受審を公言

羽咋郡市剣道連盟の総会および一の宮少剣の剣士の前で、受審を

公言した手前、下手なことではできないと念発起する。

二 体力強化

蹲踞した際、前のめりになるようになり、体力増強の必要性を感じ、運動器具を購入して、取り組んだ成果が現れ、年齢に比して動きが良くなってきた。

三 先生方の指導と稽古

羽咋市武道館の木曜稽古会に参加するようになり、中村先生を始め近藤・北川両先生のほか、若手の先生方からも稽古をつけていただきながら、本年に入り各先生方から具体的に指導を受けて欠点の矯正に努めた。

受審が近づき、押水武道館の朝稽古に向き、田畑武正先生から受審に臨むにあたり、心構え等具体的な指導を受けたことにより、心惑うことなく受審する気持ちになった。

四 好事魔多し

しかし、年甲斐もなく稽古量を増やしたせい、古傷のふくらは

ぎが痛み、さらに風邪にかかり最悪のコンディションで受審することになった。

五 居直り

「だめで元々」の気持ちで立会に臨む。各先生方の言葉を思い出し、初太刀の面は基本通りに打ち込めたことで気が楽になり、普段通りに終えることが出来た。

六 今後の稽古

世阿弥の言葉に『稽古とは一から始めて十を知り、十から戻りて元のその一』とあります。これを機会に基本に立ち戻り、年齢を考慮し健康に留意しながら、一日でも長く稽古できればと思う。

七 先生方の指導に感謝

呑み込みの悪い年寄りに根気よく指導してくださいました各先生方に、重ねて感謝するとともに、今後ともさらなるご指導をお願い申し上げます。

【全国大会等記録】(7~12月)

◎第9回全日本都道府県対抗女子剣道大会

- 7月15日 日本武道館
- 1回戦 石川 0-③ 秋田

◎第59回全国教職員剣道大会

- 8月5日 埼玉県武道館
- ◇団体
- 1回戦 石川 2-③ 徳島
- ◇個人
- ▽高大教2回戦 久保一メ高倉(大分)
- ▽幼義務1回戦 安田一メ長谷(宮城)
- ▽女子3回戦 澤田真一メ山村(埼玉)

◎第64回全国高校総体(インターハイ)

- 8月10~12日 カメイアリーナ仙台
- ◇男子団体予選リーグ 羽昨工2位
- 羽昨工 0-③ 龍谷(佐賀)
- ②-1 福岡(岩手)
- ◇女子団体予選リーグ 羽昨3位
- 羽昨 1-② 東興義塾(青森)
- 羽昨 0-⑤ 帝京五(愛媛)
- ◇男子個人
- 1回戦 四郎丸一メ小阪(帝京五)
- 2回戦 盛本 一メ下中山(東福岡)
- ◇女子個人
- 1回戦 横山一メ相場(安房)
- 2回戦 徳山一メ橋本(日吉丘)

◎第47回全国中学校剣道大会

- 8月18~20日 佐賀県総合体育館
- ◇男子団体予選リーグ 紫錦台3位
- 紫錦台 0-④ 西和(和歌山)
- 紫錦台 1-② 北都(北海道)
- ◇女子団体予選リーグ 宇ノ気1位
- 宇ノ気③-1 新十津川(北海道)
- 宇ノ気②-1 玉穂(山梨)
- 決勝T 宇ノ気1-② 勝平(秋田)

- ◇男子個人
- 4回戦 中村(宇ノ気) ベスト16
- 2回戦 中村一メ川口(下鴨)
- 藤井一メ三宅(伊勢山)
- ◇女子個人
- 1回戦 藤井一メ中田(幕張本郷)
- 1回戦 松山一メ平子(玉穂)

◎第38回北信越国体剣道大会

- 8月20日 福井県立武道館
- ◇成年女子
- 石川2位 3勝1敗
- ◇少年男子
- 石川2位 3勝1敗
- ◇少年女子
- 石川2位 3勝1敗

◎第30回全国健康福祉祭剣道交流大会

- 9月9~12日 秋田由利本荘市
- ▽予選リーグ 1位
- 石川 ②(本数勝) 2 広島
- 石川 ③-1 神奈川
- ▽決勝トーナメント
- 石川 1(代表戦) ① 山口

◎第12回全日本都道府県対抗(少年)

- 9月17日 大阪舞洲アリーナ
- ◇小学生予選リーグ 敗退
- ◇中学生予選リーグ 敗退
- ◎第56回全日本女子選手権大会
- 9月24日 長野ホワイトリング
- 1回戦 澤田有 一メ鈴木(愛知)

◎第72回国民体育大会

- 10月1~3日 愛媛県武道館
- ◇成年男子 ベスト16
- 1回戦 石川 ③-2 鳥取
- 大田 ③-2 鳥取
- 上登 ③-2 鳥取
- 星野 ③-2 鳥取
- 杉本 ③-2 鳥取
- 本橋 ③-2 鳥取
- 石川 ③-2 鳥取
- 2回戦 石川 ③-2 熊本

- 3回戦
- 大田 一メ 村富
- 上登 一メ 鈴木
- 星野 一メ 持木
- 杉本 一メ 益田
- 本橋 一メ 清水
- 石川 2-③ 大阪
- 大田 一メ 前田
- 上登 一メ 大石
- 星野 一メ 古川
- 杉本 一メ 藤武
- 本橋 一メ 松原

◎第52回全日本居合道大会

- 10月21日 広島サンプラザ
- ▽五段2回戦 高柳0-③ 村松(山梨)
- ▽六段1回戦 中村1-② 坂本(兵庫)
- ▽七段3回戦 松原1-② 亀井(高知)

◎第65回全日本剣道選手権大会

- 11月3日 日本武道館
- ▽1回戦 上登一メ榊(青森)
- ▽2回戦 上登一メ勝見(神奈川)
- ▽3回戦 上登一メ笹川(佐賀)

中央審査会合格者

- ◇剣道
- ▽七段 松井 道夫 室谷 智代
- 梅 幸彦 土田 敏勝
- 組橋 貞夫
- ▽六段 岡野 雄治 達 和茂
- 尾崎 泰之 亀井 賢一
- 針原 直孝 天内 智
- 篠井 康昭 西川 隆次
- 宮川 泰榮 白尾 隆次
- 中橋 雅彦 上村 康夫
- 竹田 洋之
- ▽居合道 北川裕美子
- ▽錬士 北川裕美子
- ▽錬士 竹田 洋之

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
 Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
 HP http://www.rindoubudougu.jp/
 E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp

●定休日/月曜日

【営業品目】
 剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
 (刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



武道具の
ハシモト

金沢市上荒屋7丁目67 TEL249-8233
 〒921-8065 FAX249-9139